

# のこ博物館だより

第87号 ▶ 2023年  
(令和5年) 3月

発行：公益財団法人 亀陽文庫 能古博物館  
所在地：〒819-0012 福岡市西区能古522-2

TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881  
E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp

満開を迎えた館庭の桜(3月29日・日本写真家協会会員森下東樹撮影)



## コロナ禍をしのいで



理事長兼館長  
原 寛

コロナ禍に世界全体が傷つけられた3年間でした。しかし、ようやく前途に明るさが見えてきました。本館もコロナ閉鎖に何度も見舞われ、その度に翻弄されましたが、今年は開館満35年を来年に控え、新たな発展を模索していかねばなりません。また一方では博物館法の改正で、館の更なる充実が求められています。

改正博物館法では、私をはじめ館の構成員の業務や活動内容の変革が求められます。当館はすでに登録博物館ではありませんが、5年以内に改めて申請する必要があります。

小さな民間の博物館である本館にとって、容易ではありません。館自体が年間の開館日を、5月の大型連休及び季節の良い10月を除く普段の月は、週末の三日間と祝日に限定しており、また、予算規模も大きくないので自ずと制約があるからです。

しかし、超高齢化社会において、博物館の役割はこれまでも増して重要です。

今回の変革にしっかりと対応していきたいと思えます。

さて、今年は亀井昭陽生誕二五〇年になります。昭陽は南冥の長男で、六四歳の生涯は南冥塾居の影響を受けましたが、南冥をしのぐほどの学者であり、いわゆる亀井学をさらなる高みへと導きました。

本号2、3ページの河村敬一氏の寄稿『父の亀井南冥を支えた昭陽』は、昭陽の業績と生涯を、紹介するものです。お楽しみ下さい。

# 父の亀井南冥を

## 支えた昭陽

—「亀井学」確立への貢献—

河村 敬一

今年(2023年)は亀井昭陽生誕二五〇年という年に当たる。

今、手許に井上哲次郎(一八五五～一九四四)の『日本古学派之哲学』があるが、かつては有名な本で、日本の江戸期の思想を勉強する上ではよく読まれた本である。なぜ、この本を取り上げたのかというと、今から述べようとする亀井昭陽(二七七三～一八三六)がこの本で取り上げられているからである。だからと言って亀井



亀井 昭陽

昭陽について知る人は少ない。福岡の儒学者である貝原益軒ほどに有名ではない。また、江戸時代の福岡藩に藩校が二校あり、修猷館は有名でも、その修猷館より一週間ほど早く藩校として甘棠館かんとうかんが設立され、父亀井南冥(一七四三～一八一四)が館長で、私塾である亀井塾の塾長であったことも知られていない。父南冥とともに、長男である昭陽は、古学派の人物で、古文辞学派の創始者である荻生徂徠の学派に当たる。このことを井上哲次郎は古学派として紹介している。

そこで、南冥に学び、昭陽に学んだ人物から少しばかり紹介しておこう。その人物とは、大分日田に咸宜園かんぎんを創始した広瀬淡窓(一七八二～一八五六)である。淡窓は日田からわざわざ福岡までやって来て、南冥に詩文を学び、昭陽にも添削などをしてもらったりしている。当時、学問を学ぼうとする際、福岡に来て亀井親子に教えを受けなければならぬということとは、他に学ぶべき師と呼べる人がいなかったのではなか。淡窓はそうした亀井親子について鋭いまでの観察眼をもって見ている。亀井親子を比較する中で、昭陽は謹厳実直の人と評しており、気性はすぐれてさわやかで、しかも心を奮い立たせるほどの教育者であったと述べている。父南冥が儒俠と呼ばれるほどに俠気が強かったことからすると、対照的とも言える人物である。

昭陽の生涯は、まさに学者そのものであった

し、人間味のある人柄であったように思う。学問に対する情熱は、父以上であると断言できるのではないか。なぜなら、南冥の著作と昭陽の著作を比較するとその差は歴然としている。確かに、父南冥は儒医とも言われるように儒者であると同時に、医者でもあったし、昭陽は学問一筋であった。

昭陽は、十代の後半にはすでに「書経しよきやう」詩経しきやう(いづれも儒学で尊重されている経書)に対して撰述したりしている。さらには十九歳の時には代表的著作の一つである『成国治要せいこくちよう』を著し、政治等々について論じている。二十歳で家督を相続し、甘棠館の儒官(訓導)となる。二十代で「荀子こんし」や古代中国の政治論を展開する「管子かんし」などの注釈書を著し、二十代半ばからは「礼記らいぎ」「周易しよくい」「尚書しやうしよ」「孟子」などを私塾で講義している。二十六歳の時、唐人町の火災で甘棠館が類焼し、再建が不許可となつて廃校となる。その後、現在の早良区西新(百道林ももち)に転居するのであった。

少しばかり横道に逸れるが、博多古地図をネットで見ることができるので検索してほしいが、近世博多の古地図で西方面に行くとき今川橋がある。その橋の手前の北側に浄満寺があり、道を挟んで南側に金龍寺がある。浄満寺は亀井一族の菩提寺であり、金龍寺には貝原益軒の座像とともに東軒夫人との墓石を見ることができるともいえる。その今川橋を渡りすぐに北側に行く道を進むと「亀井昱太郎いづく」(昭陽の

新しい居宅)がある。

さて、三十歳の折、父南冥の還暦祝いが行われるが、この頃から彼の学問熱と言えるものがさらに進んでいく。そして、南冥に伴われて秋月藩主黒田長舒ながのぶに十三歳で謁見を果たして以来、三十四歳の時、長舒の参勤交代で江戸に同行。その目的は、父南冥の『論語語由』を秋月藩の支援で開板するためであった。その後、社会情勢が変化したこともあって、幕府の防衛体制から福岡藩内に烽火台ほうかだいが設置された。すでに甘棠館が廃校となっていたこともあり、平士身分となっていた昭陽はその見張り役に三十七歳の時に勤める。その間のことは『烽火山日記』として重要な史書ともなっており、残されている。五十歳の時、昭陽が最も期待していた三男修三郎がわずかに六歳で亡くなっている。このことは『傷逝録』しやうせいろくに記される。愛する我が子を失うことは誰しも悲嘆にくれることであるが、その悲しみはいかばかりであったろうか。



傷逝録



烽火山日記

国語の発音を教えられたことは新しい出会いであった。その時、亀井家の学問の要点をまとめた『家学小言』かがくしやげんが成り、亀井学(亀門学)が知られる機会が生まれたと言える。五十三歳で次男の陽洲やうしゅう(鉄次郎)に家督を譲る。その後も「孝経」「孟子」「大学」「中庸」等々に関する注釈書や論考などを完成させ、父南冥は主著『論語語由』を著していたが、昭陽五十四歳の時、『論語語由述志』じゆしを成すことで、さらなる亀井学が完成に導かれていく。なおも六十歳過ぎて「楚辞」や「莊子」「老子」まで研究の対象とした。彼の学問への関心は、儒学それも但徠学だけでなく、朱子学をはじめとして道家の思想にまで及んでいる。辛い日々もありながら、決して学問への意欲を失うことなく、六十四歳の生涯であった。

亀井学は、明治まで亀井塾として存続し受け継がれていく。亀井塾は昭陽の次男陽洲の長男である玄谷げんこにより一八六八(明治元)年に閉じられる。しかし、亀井塾で培われた精神は、その後脈々と受け継がれていき、その嚆矢こうしが福岡藩の藩医の子として生まれた高場乱たかばらん(一八三一〜一八九一)である。陽洲が営んでいた亀井塾に学び、後に彼女は興志塾(通称人參畑塾)を開設しているが、そこから遠山満、広田弘毅、中野正剛らが輩出される。郷土にこのような人物がいたことを知っていたきたいし、亀井学(亀門学)



「福岡城下町・博多・近隣古図」(部分、九大コレクション/九州大学附属図書館)に「亀井登太郎」邸(↓)が記されている同邸の対岸、道をはさんで左に浄満寺、右に金龍寺

がどのようなものか興味関心をもっていただければと思う。

「昭陽」という語句には、春の日差しというような意味があるが、まさに亀井昭陽に陽が当たることが願いたい。

「筆者紹介」かわむらけいいち 1952(昭和27)年福岡市生まれ。高校、大学の教員を勤め、現在は筑紫看護高等専修学校講師。

主な著書に『思想の世界を旅する』『東洋思想のなぐさめ』『亀井南冥小伝』『亀井昭陽と亀井塾』など。

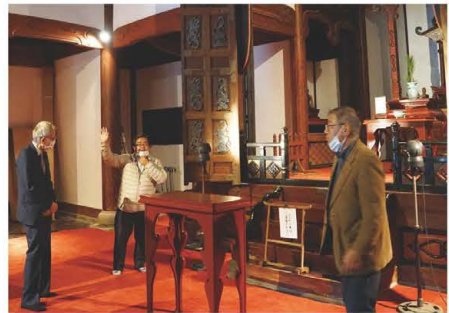
# 原理事長ら佐賀・「多久聖廟」を訪問

2022(令和4)年11月10日原寛理事長は、多久市の公益財団法人孔子の里「多久聖廟」に服部政昭理事を訪問し、能古孔子廟「筑紫聖堂」について意見を交わし、同聖廟奥殿を観覧しました。

多久聖廟については、改めて説明する必要もない程に有名ですが、1699年多久家の四代領主多久茂文が「東原<sup>とうげん</sup><sub>とよしや</sub>席舎」という名の学問所



多久聖廟



孔子像前で説明を受ける

を設け、その後1708年に孔子像と四配(孔子の高弟である顔子、曾子、子思子、孟子)を祀る廟として誕生しました。

広大で静寂な敷地のなか、ゆるやかな勾配をのぼると、国内に存在する孔子廟の中で、最も壮麗な孔子廟と言われる聖廟が現れます。

聖廟近くには中国の孔子廟ゆかりの「楷(かい)の樹」がきれいに紅葉していました。この樹木は日本では非常に珍しいとされています。

同聖廟では、「論語かるた」などを通じて地域の子どもたちが

孔子の教えになじむ裾野づくりの力を入れていくとのこと。学問の神様を祀る由緒ある施設として、受験生がかかえる父母たちが福岡からも



楷の樹の前で

バスで来廟するそうです。また、同聖廟で春と秋に行われる「<sup>せきさい</sup>積菜」は、孔子と四配に対するお供えの伝統行事で、雅楽演奏などが行われ、その日は一層の賑わいを見せるそうです。

能古博物館は、開設(1989年)後まもなく、極く小規模の「筑紫聖堂」を設けましたが、当時、多久聖廟では本場孔子廟の楷の樹の種子の孫種を育成されており、その苗木3株を筑紫聖堂前に移植してもらいました。



中国から贈られた孔子像

## 能古島出身画家 多々羅義雄の油彩3点東京へ

能古島出身で中央画壇で活躍した多々羅義雄(明治27〜昭和43)が主宰した『光陽会』会員による『第70回記念光陽展』が2022年4月東京都美術館ほか(5月広島県立美術館・7月京都市京セラ美術館)で盛大に開催された。

東京展の功勞者紹介では、当館所蔵の同画伯の油彩3点(自画像・風景・裸婦画)を展示した。

また『能古博物館コーナー』が設置され、多々羅のポストカード、DVD、博物館のチラシも利用してもらった。4月2日から8日の東京展終了後に光陽会の岡本会長より大略次のようなメールが届いた。



東京展の会場 (東京都美術館で)

『能古博物館のご支援をいただき第七〇回記念光陽展は無事に終了しました。』

拝借した作品3点は、作品が素晴らしかったので大変好評でした。ご提供の多々羅先生の作品絵葉書も、三〇セットほど保存した以外は全部なくなりました。また先生のDVDも人気で6日間朝から一日中回りっぱなしでした。

関東在住の多々羅家の皆さんに案内状をお送りし、先生のご息女(東京都在住)、お孫さんや曾孫さん(高崎市在住ほか)にお見えいただきました。ご協力いただきましたこと光陽会一同大変うれしく、そして感謝申し上げます。

光陽会 会長岡本邦治

令和4年4月12日



多々羅義雄の自画像



5月に開催した広島準本展の会場 (広島県立美術館)

### 多々羅義雄と光陽展

光陽会は昭和28年17名で結成。多々羅は昭和43年初代会長に就任するも同年12月写生旅行中に倒れ74歳で急逝。翌44年に『多々羅義雄賞』が設定される。第70回記念展には全国から158名387点の応募があった。

### 光陽会の主旨

私たちは一派に偏したり、時流に迎合することなく、各自がその作画に情熱を燃焼し自由な芸術完成に挺身するものである。

創立者 多々羅義雄氏の言葉

## 博物館法の改正(約70年ぶり)

令和5(2023)年4月より約70年ぶりに改正される「改正博物館法」

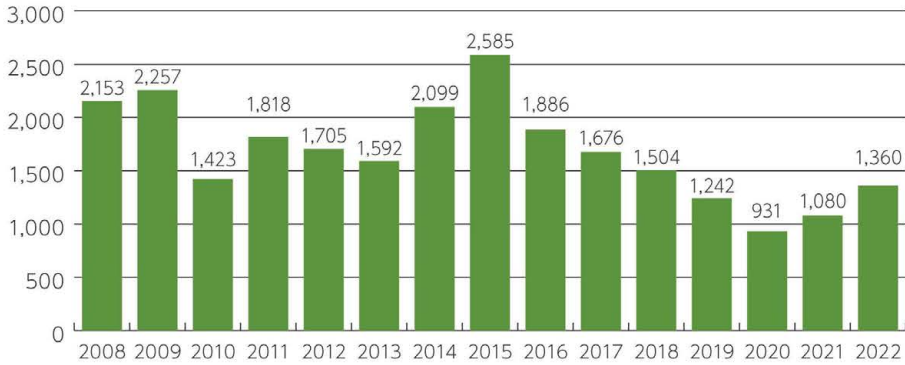
その概要は次の通りです。

新しい博物館登録制度では国と独立行政法人を除くあらゆる法人が設置する博物館が登録を受けることが出来るようになります。そのために博物館の活動、目的、事業の改善及び先進性、専門性、博物館の対外連携等が求められる内容になっており、向こう5年以内に各館とも申請し資格審査を受ける必要があります。

# 入館者が増加 “明るいきざし”

年度	入館者
2008	2,153
2009	2,257
2010	1,423
2011	1,818
2012	1,705
2013	1,592
2014	2,099
2015	2,585
2016	1,886
2017	1,676
2018	1,504
2019	1,242
2020	931
2021	1,080
2022	1,360

入館者数の推移 [2008(平成20)～2022(令和4)年度]



2022年度は、3月の仮数を170人として算入。

2022(令和4)年度の総入館者数は3年振りのコロナ禍の減少傾向から、来島者の増加に伴い向上となり4年前のコロナ前年を上回る見込み。



▼能古博物館には、本館のロビー横に男女別の広いトイレがあつて、島内を散策中の内外の観光客が、「トイレを貸して下さい」とやってきました。時には家族連れの賑やかなオシッコ風景も…。

▼住み慣れた福岡市内の盛り場のトイレ事情には、詳しいつもりでしたが、近年の天神地区の再開発ブームによって、古いビルが次々に取り壊され、我が「トイレマップ」も怪しくなりました。

▼その昔は、デパートのトイレが便利でした。また、複合ビルでは地下と低層階に大型の飲食店、小売店、書店などが入り、中高層階はオフィスにと住み分けて、全階に市民の「出入り自由な」広いトイレがありました。

▼ところが、天神地区に新しく誕生した再開発ビルには、過ぎし時代の開放的な面影は希薄です。防犯や防火などが優先されているのでしょうか。

(む)

## 主なグループ来館

(2022年3月～2023年3月)

令和4年度はそれまでのコロナ流行による「巣ごもり」から外出が増える傾向となりグループ来館が増加した。中でも福岡市西区役所と市内公民館の人権学習の一環として別館展示の「海外引き揚げの記憶」関連の来館が5組にのぼった。

- ◆2022年
  - ▼(3月)11日(金)西南学院大学宮崎教授・市史編纂室八嶋氏取材 27日(日)元氣一〇〇倶楽部19名
  - ▼(4月)8日(金)城南区ノルディックスキーツアー愛好会7名
  - ▼(5月)7日(土)東区原土井病院スタッフ15名
  - ▼(6月)22日(水)能古小6年生5名見学
  - ▼(7月)23日(土)西区城原公民館人権尊重推進協議会(人尊協)13名
  - ▼(8月)11日(木)西南学院大学梅村准教授取材
  - ▼(9月)30日(金)「財界九州」加藤編集委員取材
  - ▼(10月)9日(日)西区よかとこ案内あこめの会28名
  - ▼(11月)16日(日)山口県宇部市「ハイキング倶楽部山歩」20名
  - ▼(11月)20日(木)西区石丸公民館人尊協8名
  - ▼(11月)21日(金)能古中1年生オリエンティング23名
  - ▼(11月)30日(日)早良区飯倉中央公民館人尊協19名
  - ▼(11月)5日(土)九州大学大学院農学研究院5人
  - ▼(11月)8日(火)西区吉岐東公民館人尊協11名
  - ▼(11月)12日(土)句会翼の会
  - ▼(11月)23日(水)西南学院大学宮崎教授他学生6名
- ◆2023年
  - ▼(2月)20日(月)日本経済大学竹川教授他3名
  - ▼(2月)25日(土)福岡市科学館及び福岡石の会13名
  - ▼(3月)12日(日)福岡石の会26名
  - ▼(3月)17日(金)能古中学1年生24名

# 2022年度 能古博物館協賛ご寄附及び友の会会員名簿 (同年度末現在)

## 協賛ご寄附

### (法人)

- ・(医)笠松会有吉病院
- ・(医)江頭会さくら病院
- ・(医)原三信病院
- ・(医)恵光会原病院
- ・(医)西福岡病院
- ・(医)博仁会福岡リハビリテーション病院
- ・(医)原土井病院
- ・(株)メディカルアシスト青葉
- ・(株)サンコー
- ・(株)CDS
- ・(株)ホームケアサービス
- ・(株)ふく福サービス
- ・あおば研究所
- ・(株)旭工務店
- ・(株)内藤工務店
- ・(株)筑紫不動産
- ・(株)彩苑
- ・西日本シティ銀行
- ・浄満寺
- ・(株)アサヒホーム
- ・(株)エームサービス(株)
- ・アネール税理士法人
- ・税理士法人エム・エイ・シー
- ・(株)ワイエムフーズ
- ・(株)青葉千寿倶楽部
- ・(医)ホームケアクリニック
- ・(株)センタービジネス

### (個人)

- 足立晴道 石野智恵子 市川正隆 出光芳秀
- 上原孝正 白井敏男 小野崎徹 柏木和子
- 亀井章裕 河村敬一 岸恒憲 毛戸彰
- 古賀真 古森英毅 佐伯光弘 朔元則
- 島塚祐弘 仁保喜之 鈴木友和 添島律子
- 戸井雅貴 中村保夫 林純 原寛
- 原祐一 溝上泰弘 翠川文字 三野原勝子
- 宮本秀和 安松正美 (敬称略・順不同)

## 友の会会員

注1 敬称略・五十音順  
注2 数字は会員歴(年数)

大石 恭仁子	大島 照子	岡部 多加子	小川 和子	荻原 美枝子	小倉 智文	金子 柳水	榎島 浩子	釜我 敏子	上村 陽一郎	河野 道博	川橋 清秀	河邊 慶子	木血 敦代	北原 左近	木戸 安信	岐戸 龍一	木村 忠夫	木村 寧海	木山 啓子	國武 英子	久芳 正隆	熊谷 達彦	黒田 貴子	高口 明子	甲本 達也	古閑 道子	小坂 七ツ子	小谷 壽子	小堀 瑠伊子	小宮 作伊子	小宮 修治	柳左門	
8	10	16	14	12	12	14	11	13	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
大石 京子	坂田 さつ紀	佐久間 みな子	篠田 栄太郎	下郡 治子	白垣 憲二	杉原 正毅	杉本 謙	住本 霞	関賢司	関敏巳	瀬戸 美都子	副島 広巳	高嶋 桂子	高根 季雄	高根 襄	高川 博幸	田川 義藏	田里 朝男	田代 健治	多々羅 吉臣	立石 京	田中 一光	田中 浩子	田中 由紀子	田中 丸善彦	田中 丸善彦	玉村 英美	津田 光詢	友重 みぎ	豊田 富美子	中塩 喜美子		
10	13	13	7	9	8	11	7	6	2	17	8	10	16	11	9	11	17	6	13	9	14	13	14	14	14	23	12	8	9	14	5	6	6

## 協賛寄附のご案内

法人 100万円 × 口数 個人 10万円 × 口数  
\*協賛ご寄附及び友の会会費は、税制上の「寄附控除」の対象になります。

### 納入方法

- 郵便振替 017300960970
- 銀行振込み 西日本シティ銀行 土井支店  
普通 0551459 公益財団法人 能古博物館

## お知らせ

「このしまアイランドパーク」=久保田観光(株)=のご協力で今年も、同パークの入園券1枚を協賛及び友の会の会員の皆様に進呈いたします。  
4月になってお送りする2023(令和5)年度の「会員継続願い」に同封致します。

藤瀬 三枝子	藤井 智美子	福山 節美子	福井 和子	廣野 恵美子	平野 浩憲	馬場 佳太	春野 政虎	春野 長子	原田 雄平	原田 一男	原田 靖子	原正明	原順子	原和美	林由紀子	林昌也	花田 ひろ子	服部 たか子	八田 喜弘	波多野 直之	野村 武直	信友 浩一	西山 紀子	西牟田 奈々	西田 靖子	西田 靖子	成方 忍	永富 睦夫	舟越 茂義	
22	15	14	14	10	17	8	10	3	6	3	18	9	10	15	4	10	12	9	14	15	10	14	15	15	10	15	10	7	9	6
渡辺 紳二	渡辺 彰	和才 雅宣	若杉 佳昭	山本 留美	山下 博子	山崎 謙司	山崎 肇	安松 淳祐	安恒 忠男	安井 久喬	森正敏	森純子	森次郎	杜あつむ	本島 洋	みのたりか	南アサノ	水崎 雄文	三浦 佑之	丸谷 理奈	松本 美津子	松村 等彰	松崎 智恵子	松岡 智恵子	松尾 尚城	真角 磨鬼枝	増田 志津子	牧健太郎		
2	10	8	8	12	29	10	12	11	13	14	9	12	14	12	17	8	2	15	9	13	6	12	8	11	15	9	9	11	9	11

## 友の会入会の案内

- 友の会会費 1000円 (何口でも可)
- ※会費の納入方法 郵便振替 017300960970 公益財団法人 能古博物館
- (1) 振込み料は当館にて負担致します。
- (2) 会費の納入確認後、会員証をお送り致します。
- (3) 会員証の有効期間は1年と致します。
- (4) 入館時に会員証を受付にご提示下さい。ご入館は随意で何回でも無料です。(ご同伴1名まで無料)
- (5) 機関誌「この博物館だより」をお届け致します。随時やご意見を歓迎いたします。但し誌面の都合で掲載を見送る場合はご容赦願います。原稿は必ず必要なら事前にコピーをお願いいたします。
- (6) 館が企画する催物のご案内と参加費の割引を致します。

ようこそ博物館へ



渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(2023年3月現在) ※博物館へは「能古学校前」で下車して下さい。

渡船場前発 アイランドパーク行	全日	07:57	08:45	09:35	10:35	11:35	12:58	13:40	14:35	15:35	16:35
アイランドパーク発 渡船場前行	全日	08:20	09:10	10:08	11:10	12:30	13:15	14:10	15:10	16:10	17:28

※ 繁忙期は臨時便が運行されます。

**西鉄バス**

- JR博多駅より 博多口正面Aのりば  
300、301、302番「のこ渡船場行き」:約50分
- 天神より 三越前1Aのりば  
300、301、302番「のこ渡船場行き」:約30分

**市営地下鉄:「姪浜駅」下車乗り継ぎ**

- 西鉄バス姪浜駅 北口  
98番「のこ渡船場行き」:約12~20分
- タクシー:約8分

**市営渡船(フェリー)**

- 姪浜一能古島間:約10分

**お問い合わせ**

姪浜旅客待合所  
TEL 092-881-8709

能古旅客待合所  
TEL 092-881-0900

**能古・姪浜航路 時刻表**

能古 発	8	10:00	16	17:30	姪の浜 発	8	10:15	16	17:45		
1	◎05:00	9	11:00	17	18:00	1	◎05:15	9	11:15	17	18:15
2	06:00	10	12:00	18	18:30	2	06:15	10	12:15	18	18:45
3	06:30	11	13:00	19	19:30	3	06:45	11	13:15	19	19:45
4	07:00	12	14:00	20	20:15	4	07:15	12	14:15	20	20:30
5	07:30	13	15:00	21	20:45	5	07:45	13	15:15	21	21:00
6	08:00	14	16:00	22	21:45	6	08:15	14	16:15	22	22:00
7	09:00	15	17:00	23	◎22:45	7	09:15	15	17:15	23	◎23:00

※ 繁忙期はフェリー臨時便が運航され、島内バスの臨時便と接続します。

◎印は日祝日運休 2023年3月現在